

わが図書館ならではの本

始良伊佐支部 始良市蒲生公民館図書室

「ふるさとの手すき和紙の歴史を訪ねて」 野村正二 編著

豊かな水と原料に恵まれた蒲生では、1645年薩摩藩家老・島津久通の殖産政策により、武士の副業としてカジノキによる和紙作りが導入されました。最盛期にはおよそ300人の和紙職人がいた名産地でしたが、時代とともに衰退しました。

本書は、かつて旧蒲生町の無形文化財の指定を受けたただひとりの紙漉き職人、故・野村正二氏が、昭和59年の南日本文化賞受賞を記念して和紙を自家抄造、和綴じ製本した私製本です。紙漉きの歴史・製法が余すことなく記され、次世代の道標となるよう、職人の心が込められた本となっています。出版当時は野村氏しか職人がおらず、存続が危ぶまれていた蒲生和紙ですが、現在は後継者に恵まれ、伝統の技と野村氏の思いは蒲生の地でしっかりと受け継がれています。

